

2013年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	環境材料化学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年前期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース)/選択科目(食品生物資源コース)/選択必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	西田 哲明						
授業の到達目標(シラバスから)	1. 放射線や原子核の基礎と応用について解説できる。 2. メスバウアー効果の原理と応用について解説できる。 3. 環境問題の解決にメスバウアー分光法が有効であることを解説できる。 4. 廃棄物のリサイクル、新素材の開発とそれらの応用について解説できる。						
日程と内容	4/10 導入講義：授業の概要と進め方、成績評価について説明する。放射線について 4/17 放射線の種類と性質 4/24 自然放射線と放射線、原子核の有効利用 5/1 放射線の単位 5/8 メスバウアー効果とは 5/15 異性体シフトと化学結合 5/29 四極分裂の基礎 6/5 化学結合、電気陰性度、電子構造とメスバウアーパラメータその1 6/12 化学結合、電気陰性度、電子構造とメスバウアーパラメータその2（中間試験含む） 6/19 無機固体材料その1、非晶質固体の構造 6/26 無機固体材料その2、分子磁性体の構造 7/3 無機固体材料その2、錯体の構造 7/3 メスバウアー分光法の環境化学への応用 7/10 メスバウアー分光法と廃棄物のリサイクルその1 7/17 メスバウアー分光法と廃棄物のリサイクルその2 7/24 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%			
	臨時試験	30%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	1. 放射線や原子核の基礎と応用について解説できるようになった。 2. メスバウアー効果の原理と応用について解説できるようになった。 3. 環境問題の解決にメスバウアー分光法が有効であることを解説できるようになった。 4. 廃棄物のリサイクル、新素材の開発とそれらの応用について解説できるようになった。						
反省点	30名弱の授業であったが、全員真剣に授業に取り組んでくれた。						
来年度の計画	全員が、総合評価10点を付けてくれることを目標にしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価(10点満点)で8.8(24名回答)となり、そのうち15名(63%)が10点または9点を付けてくれた。個別の設問項目においても、多くの項目について4.4~4.5(5段階評価)の評価であった。						
履修登録者数	30名	定期試験受験者数	25名	合格者数	25名	合格率	100%